

平成28年第1回総合教育会議議事録

平成28年第1回総合教育会議が、平成28年6月27日、午後3時30分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 議 事

議事第1号 教育の条件整備等について

5 その他

6 閉 会

○ 出席者

市長	小 口 利 幸								
教育長	山 田 富 康	教育長職務代理者	小 澤 嘉 和						
委員	石 井 實	委員	小 島 佳 子						
委員	林 貞 子								

○ 欠席者

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	岩 垂 俊 彦	こども教育部次長 (教育総務課長)	青 木 実
こども課長	青 木 正 典	家庭支援課長	百 瀬 公 章
生涯学習スポーツ課長 (新体育館建設プロジェクトリーダー)	中 野 昭 彦	平出博物館長補佐	小 松 学
男女共同参画・人権課長	熊 谷 善 行	市民交流センター次長	赤 津 廣 子
市民交流センター長 (図書館長)	中 野 實 佐 雄	(子育て支援センター所長)	
交流支援課長	小 松 秀 樹	図書館副館長	上 條 史 生
主任学校教育指導員	碓 井 邦 雄		

○ 事務局出席者

教育総務課課長補 太 田 文 和 教育企画係長 米 窪 昌 紀
(学校支援係長)
教育企画係主事 武 居 由 理 恵

1 開会

岩垂こども教育部長 御苦労さまでございます。定刻となりましたので、ただいまから平成28年第1回総合教育会議を開会いたします。私、こども教育部の岩垂ですけれども、本日の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。今日は、新教育委員会の体制になって初めての総合教育会議となります。

2 市長挨拶

岩垂こども教育部長 それでは、初めに小口市長から挨拶をお願いいたします。

小口市長 改めまして、こんにちは。今日、奇しくも新教育長並びに元教育委員長に新たな制度の教育委員として、辞令交付させていただいた次第でございます。しかしながら、メンバーの顔ぶれは前回と変わりませんので、よき輪の中にも新たな気持ちです。新たな指導、教育施策について、ときには葛藤もありましょうが議論を深めていただいて、実践的な成果が出るようにお願いしたいと思う次第でございます。

過日、コミュニティ・スクールの関係者を集めた連絡協議会に30分くらいしか出られなかったのですが、6つのテーブルを3分から5分ずつ回らせていただきました。ちょっと気になったのは、広陵中学の通学区のグループかな、何か子供を学校に安全に送り、または戻すための方策みたいなものが議論の中心になっていました。ちょっとその場で池上さんにもお話しましたように、それは本来教育総務課のやるものであって、新たなコミュニティ・スクールを構築しようとする、それぞれの指揮者の集まりとはちょっと違うんじゃないかなと、私は思いました。それもとっても大切なことだと思います。しかしながら、新たな教育委員会、また新たなコミュニティ・スクールへの入り口は、もっともっと教育に主眼を置いて、子供がいかにか、知的ばかりではありませんけれど体・徳・知においてですね、伸びていくための方策を講じるための研究をしていただくことでないと、従来の学校評議員制度よりもむしろ劣るくらいの中身になってしまったのでは何の意味もないと。学校評議員制度、私は失敗だったと思っています。苦肉の策で、ほかにやることがなかったんで、国がやったっていうことでしょうかね、今から思えば。それと同じことを、また新たなコミュニティ・スクール、その心象がどう証されるかは別として、そこに、私から言わせれば戻ってしまうのでは、全く時間の無駄だと思いました。そこにとどまらず、他の5チームは聞きかじるところでは、もっともっと子供を中心に置いた、交通政策も子供中心じゃないとは言いませんが、新たなスタートにはちょっと物足りなかったなという感じがいたしましたので、長い間いたわけじゃないので、その1点だけを見て批判するのはよくないかもしれませんが、ちょっと気になったということで、お話したという次第です。現場で池上さんにもそのように話をしましたが、池上さんもそのような御意見であったかなという気がしました。ちょっとまとまらない話ですが、よろしくお願いいたします。

3 教育員長挨拶

岩垂こども教育部長 ありがとうございます。続きまして、教育長から挨拶をお願いいたします。

山田教育長 それでは、一言挨拶させていただきます。昨年4月1日に施行されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律によりまして、昨年度から実施されている総合

教育会議が2年目を迎えました。昨年度の第1回の総合教育会議では、早速、塩尻市教育大綱を策定していただき、大綱の理念の運営に向けて施策推進をさせていただくことができいております。また第2回の総合教育会議では、教育の状況整備の話し合いがなされました。生きる力を育む交付金やコミュニティ・スクールの推進、また特別支援教育の推進と指導主事の導入等について話題としていただきました。市長さんとの思いの共有が進み、特別支援教育指導主事の導入など、必要性を認めていただいたことで事業化を進めることができました。早くも成果に結びつく方向性が見えてきているのではないかなと考えております。

今、教育現場には、確かに課題が山積しております。市長さんは常々教育現場に課題があつて、さらによりよいステージが展開されるとすることであるならば、教育再生の歩みは決してとどまることはあり得ないという意味の言葉を発せられております。今年度もこの会議を自由闊達な意見交換の場として充実させ、課題の共有と、また課題解決のための新たな施策の方向性を見出すことのできる機会としてまいりたいと願っております。どうかよろしく願いをいたします。

岩垂こども教育部長 ありがとうございます。

4 議 事

○議事第1号 教育の条件整備等について

岩垂こども教育部長 それでは、お手元の次第に従いまして議事に入ります。議事第1号、教育の条件整備等についてを議題といたします。資料No. 1でございます。当日配付資料としまして、3月に広丘小学校の児童が交通事故に遭いました久里巾交差点の変更素案、また平成27年度通学路緊急合同点検箇所一覧（結果）、また学校図書館の蔵書に関する資料をお配りさせていただいております。時間配分でございますが、およそ1時間でございますので、(1)番の児童生徒の安全についてを約30分というような進行でお願いしたいと思います。

それでは、市長または教育委員会の皆さんから御意見を伺いたいと思います。最初に児童生徒の安全対策についてのうち、通学路の安全対策についてを議題としたいと思います。御意見のある方はお願いいたします。

石井委員 私のほうから2点ほど市長さんのお考えをお聞きしたいと思っております。近年、なぜが下校について集団で通学・下校しなければならないというような、これはちょっと社会がおかしくなっているかなんていうふうに思いますけれども。そんな中でやはり集団で歩いていることによって車が突っ込んで来た場合に、非常に大きな被害、けが人が出るわけでございます。今もお話がありましたけれども、3月の九里市の事故でございますが、これも子供たちは1年生に上がって、父親、母親から、そしてまた学校の先生たちから、こういう具合に安全な道を安全に歩きなさいと登下校を教わってきたわけですが、そこにけが人が出るような事故が起こってしまったということございまして、ここら辺で九里巾の交差点の改良というようなことができないものだろうかということと、それから、これは国道でございますので、市でもってどうこうということもできないかなと考えておりますけれども、私の考えでは、市長さんから国のほうへ働きをかけていただいて、早急に改善ができるものなら改善をしていただきたい。何とか安心して交差点を歩けるようにしていただけるようお願いをしたいなど、こんな具合に思うわけでございます。

もう1点は、ちょっとその下のところにあります。今日、昨日、おとといと、洗馬でございますけれども、熊の出没で大騒ぎをしております。その点についても、市長さんのお考えをいただきたいなと思って。今日も小学校まで私は朝、飛んで行きましたけれども、どういう具合に今度は通学させればいいのかなんていったことも、校長、教頭と話をしたわけでございます。教頭さんと校長

先生は昨日、熊の出たところをあっちへ行ったり、こっちへ行ったりしていたら明るくなっちゃったというようなことですので、家へ帰っていなかったかなと思います。これも非常に危険なことですので、早急に御判断をいただきたいなと思っているわけですので。1番目と2番目と一緒になくなってしまって申しわけわけありませんけれど、よろしく願いいたします。

岩垂こども教育部長 最初に一番の通学路の安全対策について、お手元の資料の説明を最初にこちらのほうからさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

青木こども教育部次長（教育総務課長） それでは、資料の関係をお願いします。表になっているもので、少し字が細かくて見づらくて申しわけございませんが、緊急合同点検箇所一覧というものと、高原通りの変更素案についてという地図になっております。表のほうは、先ほど部長からも話がありましたけれども、3月1日に広丘小の1年生が事故に遭って、緊急点検を小学校から危険な箇所、気になる箇所を上げていただいて、9校全部実施しております。全部で15カ所です。通学路の点検は、毎年8月の夏休み期間中に実施しておりますが、今回、前倒しではないですけれども緊急で実施したということです。広丘小学校からは2カ所上げていただいて、2番のほうが九里巾交差点です。そのときの点検内容では、一番上の横断旗ボックスの設置、これについては3月11日に設置しております。それから、信号機の時間調整ということで、少し歩行者のほうの時間を延ばすということを警察のほうで3月9日の時点でやっていただいておりますし、あと路面補修ですとか、カラー舗装の関係も建設課のほうで実施していただくということです。根本的なスクランブル交差点への検討も警察のほうでは行っていただけるということですが、実際にできるかどうかについては検討をした結果によるという状況です。一番下が長野国道工事事務所の関係で、交差点改良でございますけれども、これも改良の予定はあるけれども、実施時期については、現時点ではまだ具体的にないということでございます。

その交差点改良の内容でございますが、図面のほうになりますけれども、2段に分れておりますが、上の段が、国道が拡幅になった後、最終的にはこういう形で改良したいという案として国道のほうから示されているものでございます。最終形態というふうに見ていただければと思いますが、国道が4車線化で、交差点には右折車線も設置されるということになります。それから高原通りから来る部分と野村大門線ですが、この交差点については、現在、センターが合わなくてずれている状況でございますので、これをそれぞれ改良して交差点の中心が合うようにするというので、赤い線が最終形態でございます。ただこれについては、用地買収ですとかそういうことが伴いますので、南側は若干進んでおりますけれども、北側のほうが進んでないということで、いつになるかは未定ということで伺っております。当面、交通事故の関係もありましたので、下の段の国道の改良部分では、赤い部分が既に買収済みということもあり、南から上がってきたところを、国道のほうで右折車線を新たに設けたいということと、高原通りに曲がっていくところについて改良をしたいというのが、赤の部分で計画されております。これについては、28年度の実施に向けて現在、公安との協議を進めているということで伺っております。本日建設課のほうで来て説明いただける予定でしたが、別の会議が長引いているということで、私のほうであらかじめ聞いた内容を説明させていただきましたので、よろしく願いいたします。

岩垂こども教育部長 当面スケジュールということも、石井委員、聞きたいところだと思うんですけども、市長さんのほうでお考え等ございましたら、お願いします。

小口市長 今、長野国道事務所から6月の半ばでしたか、毎年19号の、PTA、保育園の保護者会まで含めた形の中で報告があった内容が、今、下の図面にあります。いわゆる高出方面から来て右

折車ですね、右折車の右折路線は、28年度中に完成させると明言がございました。今回の3人がかわいそうにけがをしてしまったことが、ある意味では工事が早く進む1つの結論になったことは確かです。だからいいっていう意味じゃなくてですね。ただ全体用地買収はまだ65%ですから、今年度ほぼ今言った佐川急便側、広丘側は終わりますが、反対の多分高出のほうに来たところのヤマダ電機が、今年度中には用地買収までいかないと思いますので、ゆえにまだ完成に、いわゆる上の赤線を書いてある4車線化までは、まだ感覚論ですが、早くても3、4年はかかるかと。これが実情ですね。先ほどちょっとお話した子供を安心して学校に届ける、安心して家に届けるという議論に偏っていたのは、ここがあったからだってことはよくわかりますけどね、あの日のグループではそんな話がされていました。ただ交差点を青信号になって渡っている者に、信号無視で車が一時的にぶつかったら、どんな安全な交差点もあり得ないので、これだけはお互いに自覚しなきゃいけないと思います。交差点だから安全ではないんですよ。

石井委員 ドライバーが青でも何でも突っ込んでくるくらいのことだったら同じことだし、本当に安全にということになると地下道を掘るとか、高架はというようなことじゃないと。

小口市長 ここで一番今まで渋滞の原因になっていたのは、やはり角前工業団地に曲がる大型車、ここの交差点で曲がるんですね。この次のところだと段差があって、なかなか曲がりにくいんで。それによって、高出方面から来た右折車が渋滞を起こしてしまうので、後ろのドライバーはいらいらしているから、飛び出しちゃうと、警察の言い方では、それを早めに右折車線を通すことによって、ここのいわゆる松本方面に行く朝夕のラッシュ時には、ここの渋滞は緩和するでしょうということに注目して、早めにここだけやっ飛ばさようという判断になったようです。

石井委員 私はここまで、この地図のような具体的な考え方を持っておられるということを知りませんでした。そんなことで早急に手を打っていただいているということで、よろしくお願いをしたいと思います。

小口市長 確かにね、正直に言えば、行政の責任だってあるんですよ。この下の絵の左の角のところね、これ市費で買えよっていう話をしたことがあるんですよ、1回。それは国の金で交差点改良のときに一緒にやれば、市の真水は少なくて済むと。もっともな話なんでね、じゃあ待とうかという全体の雰囲気もあったことも確かなんで。早くしなければと思いますけどもね。

石井委員 今何て言っても救われたのは、私も学校参観に行ったときに、その3人の子供が元気で、教室で勉強をしていたことは、とてもよかったなと思って。

岩垂こども教育部長 あと合同点検のときにいろいろあるわけなんですけど、委員さんの中で何か、特にこの場所というようなことがありましたら、この際お願いしたいと思いますが。

小澤教育長職務代理者 1点いいですか。合同点検箇所一覧表を見せてもらった中で感じたことです。二、三年前から関係各部署が合同で点検することとなり、通学路の安全確保の気運が非常に高まって参りました。さぞ各学校はたくさんの要望事項が寄せられて、関係部署は、その対応に大変だと、そんな思いでいたわけです。ところが、例えばの話、片丘小学校は2点のみ。あれ少ないなあ。そしてどこの学校も少ないわけです。取捨選択した結果かなんてことを思うんですが、個別案件のことをここで言うことはまずいですか。言ってもよろしいでしょうか。

岩垂こども教育部長 はい。

小澤教育長職務代理者 例えば、私が住んでいる区では6月に区総会がありました。例年だとほとんど意見がなくて、異議なしで終わっちゃうんですが、通学路安全確保についてが話題になりましたら、意見が出るわ、出るわ、次から次ですごいんです。若い方々の願いのあらわれは、通学路安全確保であります。片丘小学校は2つきりではなく、県道と中央道が交わる旧南部保育園の北側の信

号、あれの危険性が相当に指摘されて、早く南側にある信号を北側へ移動してほしいとか。あるいは旧南部保育園の南側のあの急なカーブ、あそこを何とかして欲しいとかが相当出されました。県道のことですから、区のほうから県へ声を上げていかねばという話になったんです。あそこにポールを立てて車道と歩道を明確にするとかの案が出ました。地域にとっては通学の安全確保が喫緊な課題になっていることが、改めて確認できました。そういう危機意識は区長を通しますが、この一覧表を見る限り上がってないとなれば、住民の意識調査は、もうちょっときめ細かにやっていかなくてはいけないなあ、そんなことを思った次第です。以上です。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 説明をさせていただきます。今回の緊急点検は、時期的にも急遽ということでしたので、各学校で2カ所程度、本当にすぐやらないきゃいけないところを上げてほしいということで依頼をしたので、最大で2カ所ということになっております。例年、毎年実施しております夏の点検のときには、各学校でPTAや地区からの要望等も含めて取りまとめておりますので、昨年の点検の際には片丘小学校からも数多く、県道も含めて上がってきている状況です。決して片丘が2件しか上がってきてないということではございません。その辺は、御理解をいただきたいと思います。

小澤教育長職務代理者 はい、了解です。

岩垂こども教育部長 済みません、時間の関係もありますので、この程度にさせていただきます、2番目のですね、先ほど石井委員さんからもお話いただいているんですが、熊の出没対策についてということで、まず現状から報告させていただきたいと思いますので、お願いいたします。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 今年度の状況でございますけれども、先週の木曜日に、熊がふれあいセンター洗馬と児童館の近くで目撃されたというのが発端でございます、警察や猟友会も含めて探したところ、潜んでいる場所がちょうどふれあいセンター下の巾のところだということでした。そこで目撃情報が何回かありましたので、夕方まで待って猟友会のメンバーがそろってから追い出しをしたんですけれども、結局発見できず逃げられてしまったということです。先週の木曜日、23日が発端でございます。この週末、昨日ですけれども、また同じ箇所でも2回ほど、多分同じ熊だろうという目撃情報があったということと、今朝また目撃があったということで、多分同じ熊がそのあたりに潜んでいるのではないかとこの状況でございます。警察のほうも、森林課のほうも、猟友会のほうも何とか対応をしなければということで、檻を2カ所に仕掛けたり、定期的にパトロールとかを行っておりますが、いまだにつかまらない状況です。通学路として、子供たちが通るところでもありますので、学校としてはとりあえず休校とか、登校を遅らせるとか、そういう対応はしてありませんが、通学時の安全には、保護者の皆さんも配慮してくださいというお願いをするとともに、先生たちも登下校の時間帯にパトロールをしています。教育委員会でも通学時間帯に合わせて車でパトロールをしている状況で、週末からこういう形でバタバタしておりますが、洗馬地域の皆さんにも大変協力をいただいております。今、そんな状況でございます。

小口市長 23日に見つかったのは、子連れの熊って言ったかな。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 最初に見つかったのは小さい熊だということで、小熊だろうということでした。その後、子連れの熊が小曾部のほうへ上がっていくのを見たという報告がありましたので、それはまた別件ではないかと思えます。今回また、昨日目撃されたのは、小さめの熊ということ聞いています。

小口市長 それは、1匹だね。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 1匹だと思います。

小口市長 じゃあ、違う熊かな、と思われるんだね。

青木こども教育部次長（教育総務課長） はい。

小口市長 仲間じゃないと。

青木こども教育部次長（教育総務課長） ただ、猟友会の方の話では、もしかしたらその子連れの片割れかもしれないというような話がありましたけれども、詳細はちょっとわからない状況です。

小口市長 しばらくいなくて喜んでいたら、出ましたね。ちょっと油断してたかな。

石井委員 それでね、子ども聞きたいのは、確保したときにまた放しちゃうんですよね、生きたまま。それがどういうものかなと。熊の習性として、里山で生まれた熊は、俺たちの領分だという気持ちが里山にはあるので、そこら辺は、俺たちの領分のところに人間が何で入ってきたっていう気持ちがあるんじゃないかなっていうことは思うんだけど。だけど、あれだけいたずらされたり、人間に被害が出ない前に、捕った熊は何とか処置したほうが。

小口市長 全くそのとおりです。

石井委員 逃がしてやったのに、また何カ月かたったら来ると、同じところに。

小口市長 幾度となく、最終的な権限は市長にあるので、全部俺のところへ、誰が来ても文句言う人を通せと、何回指示していてもまだ逃がしたい人がいるのですね。本当にあってはいけないことだと思います。確かに熊かわいそうです。ましてや小熊にしたらもっとかわいそうです。だけどやっぱり子供の安全のほうがもっともっと大事なので。これはね、やっぱり心を鬼にしてその場で射殺してくれんと。直接支所から連絡長に話した話。あえて県の林務部との話し合いのときにも、担保をとるために私のほうからあえて質問をしましてね、最終権限は市長ですねと。里山に出てくる、要するに人がいるところに出てくる熊は普通と違うので、これは危険とみなしていいですねと。この2つを直接部長から議事録に残る形でしてありますので、その場で撃ってもらって全く構わないんです。

石井委員 今日校長が言ってたけど、スクールバスって手も考えているけども、どういうものかねなんて言って。

小口市長 しばらくは今言ったようにチョイスすれば、直接的に有効な方法は、スクールバスを出すより方法はないです。だから、それが半年に及べば、もう800万円とかね、そのくらいかかる。そういう予算を教育予算から出して使っているにもかかわらず、熊の子供はかわいそうだから逃がすというのは、全く私は本末転倒だと思います。あらゆるところで、そういう話をしていますんで、少なくとも市の職員で逃がすという人はいないと思う。そこに集まった県の職員と学者さんと、もしかしたら支援法団体っていいのか、何とかが来ると、そこで葛藤は生じるでしょうね。でも、その場で市の職員が負けたら勤勉手当カットだということで、私は明確に言っている人間ですから。冷たいかもしれない。冷たいかもしれないけれど、現に人間社会なんでね、それはしょうがないじゃないですか。だって子供に危害を加えないという保障は全くないですし。

石井委員 今日、ここの中にいる職員の皆さん方が洗馬まで来て、要所要所に立ってもらったり、区長会は全部そういったことで手配をしているんですけども。コミュニティ・スクールの中に、私どものほうの熊を追い払う係がありましてね。その方達が出ては、行方を捜したりなんかしている。

小口市長 その人たちだって危険でしょう。小熊ならいいけど、大きいやつも一緒にいたら。

石井委員 いや、それは小曾部の慣れている方です。

小澤教育長職務代理者 過日、新聞に載っていましたが、IT機器を活用して鳥獣の動きをキャッチするとありました。お仕置きということで、一旦眠らせて、寝かせて山の中にぼいっと放す。市長さんが危険とみなすとなると、また、保護の観点から過激な市長だって言われます。

小口市長 私は、構いませんよ。正論ですからね。

小澤教育長職務代理者 それで、眠らせるときにICチップを身体のだこかへ埋め込む。これはやっているのでしょうか。

小口市長 いますよ。

小澤教育長職務代理者 それが機能してくれば、予見予知で動きが察知できる。こういう態勢ができてくると思いますが。

石井委員 いや、それは熊に言い聞かせたって里へ出てくる。

小澤教育長職務代理者 GPSで動きがわかる。そういう態勢を塩尻はとるわけです。

小口市長 今、イノシシにそれをやっていますけど、それは位置がわかるだけで、何の防御にもならないんですよ。今、石井委員の言うように、また来ますから。それを撃つ人がいて、それをちゃんとフォローしてくれる。北小野の場合には、元区長が、非常に一生懸命やってくれているから効果があるのであって、あの機械は何の役にも立ちませんよ。猿につけたって、人間が行けば、逃げる。

小澤教育長職務代理者 位置がわかるだけなんですね。

小口市長 位置がわかるだけです。だからつかまえやすい、撃ちやすい、来たら早く対策がとりやすいということだけですから。あるいはおりをかけて、動態がわかれば、そこにしかけられるという、ということだけですね。その後、処理するのは全て人間ですから。熊にお仕置きしたって、そんなもの感じません、だから獣って言うんであって。

小澤教育長職務代理者 決まりがある。むやみに撃たないと。

小口市長 熊の場合で言ったら危険であるということですよ。

小澤教育長職務代理者 危険って認定すればいいってことですか。

小口市長 危険である熊は、撃つ数が決まっていますので。県は市長権限でいいということになっているので、そのとおりに実行してもらいたいということを猟友会の皆様に言っている。猟友会の皆様も危険だから早く処分して、早く帰りたいんだけど、いろいろ集まってきていろいろ言うもので帰ってしまった。去年だって、帰ってしまったのを途中で呼び戻して、野辺沢の熊を撃ってもらいました。

石井委員 猟友会の人たちにも、出動してもらうのに、市で手当を出しますか。

小口市長 他自治体の3倍くらい出しています。

石井委員 そうですか。

林委員 大勢いらっしゃるんですか、猟友会のメンバーの方は。何か若い人がいなくなって、どんどん高齢化になっているなんて話を聞きますけど。

岩垂こども教育部長 ただ銃の免許の補助制度はありますけれども、若い方がとれるようにということなんです。

林委員 ただ熊を見たからと言って誰でもすぐ撃てるってものではないですよ。やっぱり怖いですしね。

小口市長 熊を撃てるっていうのは、よっぽどのプロです。

林委員 上手、ベテランということなんですね。

小口市長 わなを仕掛けてくれる人は増えてきました。鹿やイノシシ用のわな。撃つのは1人ではなかなか難しいので、鉄砲の免許とは別なので。つかまえたら、撃つ人が来てから射殺するという事になっている。

岩垂こども教育部長 なからこんな具合でよろしいかと。

次に防災行政無線の定時放送について、PTAからのいろいろな御意見等がでておりました、放

送する時間の問題、あと内容の問題等あるんですが、小澤委員さんのほうからぜひお願いします

小澤教育長職務代理者 この協議題が来なければいいなと思っていましたが。ちゅうちょしながら提案というか、お話をします。行政懇談会の中、子供たちの安全を守る、そのあかしの1つとして、防災無線の中で子供たちが帰る時間に、地域の皆さんは児童の安全のため見守りましょうという声を一齐に流したらどうか話題になりました。教育委員会の中で、メリット、デメリット、いろいろ考えたわけであります。現在、どうしたもんだなあってところでとまっているのが実情です。それで、ここで、市長さんとの話し合いの中で、市長さんがいいじゃないかと言われたら、そっちへグーッとカーブしてしまう恐れがあります。もしそうなったとき、責任が市長さんに行くことも予想されますので、もうちょっと私たちの中で検討した上で、お話をさせていただくことがよいだろうと思います。

小口市長 何でそんなことで私のところに責任が来るんですか。お褒めをいただくのであって。確かに、正直、うるさいって人はいますよ。この間みずほ保育園に園児とのランチタイムに行ってきたら、ちょうどそこで、あれ3方向かな、大きなのが園庭に建っているんです。あれ、うるさかったですよ。それで園長に聞いたら、正直に、お昼寝しているときにあれやられると起きちゃう子がいますって言っていました。だから必ず100%が賛同っていうことはないんでしょうけど、要は地域、コミュニティ・スクールっていうのは、やはり地域がいろんな面で子供を育てるっていう意味ですよ。昔からよく言われたけど、なかなかできない。そこの一助になるので、子供が帰ったら挨拶してくださいとか、犬の散歩をしている人は同時に同じ方向へ歩いていけば、これは不審者への見守りにもなるので、そういう放送をやっていくことは全然やぶさかじゃないと思いますよ。ここで決めればいいじゃないですか。

小澤教育長職務代理者 そうですね。

小口市長 うるさいって人は絶対いますよ。今は24時間、労働条件、違うので、具体的に言うと広丘分団何部が一生懸命、操法をやるわけです。勤め人、残業の人も多いので、原則、朝、仕事へ行く前にやって、帰ってきたら出れる人だけ出て、もう1回やると。それくらい熱心なボランティアをやっている。朝帰ってきて、夜勤で寝る人がいるんですよ。朝帰ってきて寝た途端にあれで起こされちゃうと。クレームじゃないですよ。極めてロジカルな方。そのボランティア精神は非常にいい、すばらしいと。自分はできないと、そんなこと。だけど、自分は今言ったようにいろんな都合で夜勤で帰ってきて寝たら、一番体、心を休めなきゃいけないときに、これはつらいですと。何とか対策ありませんかっていうので、勘弁してくださいしか。今練習の場所が、違う場所にできるかどうか探してみます、という回答しかできないんですけどね。3年くらい連続で来ましたね。という意見がありますので、あれもうるさいって人はいるでしょう。でも、それはしょうがないじゃないですか。だってそのときのための防災無線だから、いろんなことの命の災害を防ぐために使わなかったら4億3,000万円出した意味が全くないと思いますけどね。

小澤教育長職務代理者 それでは、ここでとめておいて、あとは教育委員会で決めることと理解させてもらいます。

岩垂こども教育部長 教育委員会の中でも熟議させていただきたいと思います。

小澤教育長職務代理者 ありがとうございます。

岩垂こども教育部長 それでは、(2)番の児童・生徒の貧困対策について、給食費のあり方についてでございますが、先ほどの定例教育委員会の中でも報告させていただきましたけれども、今回6月定例会におきまして、お二人の議員さんから給食費の取り組みということでございました。柴田議員さんから具体的にですね、保育料補助の後ということの意味も含めて給食費の無償化というこ

とをいただいたわけですが、議員さんのその中では、第3子のお子さんに対して給食費を半額にするのはどうかというような御提言もいただいたんですが、答弁の中ではですね、就学援助費の給食の一部を支給しているというような説明をさせていただいたわけですが、例えば現在、就学援助費の支給割合を6割から8割に引き上げるという形になりますと700万円の市費の負担が必要になると。先ほど柴田議員さんの提言の数字もやはり700万円ほどかかるということで、貧困対策という意味ではですね、就学援助費を6割から8割に上げていったらどうかというような議論もあるんですけども、またこれは後ほど、それぞれ検討する中で詰めていきたいんですけども、もしよければ皆様の御意見等もいただきたいというふうに考えています。教育長のほうから何かございましたら。

山田教育長 貧困対策というのは喫緊の課題になってきています。議会の中で小澤教育委員長が任地能力に合わせて非認知能力の育成が必要という提案をされています。今回も非認知能力アップということを重点施策の一つとしているんですけども、それは、どういう家庭状況にあっても、そういう力を持っていると将来に向けて生き抜く力を身につけ、自立していくことが可能になってくるという、そういう考え方なんです。ただ、今現在貧困に陥っている子供たちが、なかなか家庭で十分な食事がとれなかったり、または家庭の中でよりよい状況で食事がとれないという家庭もふえてきていることを考えると、議会の中で検討していくということで出した就学援助費の6割を8割という形で貧困対策に視点を置いた給食費の減免をしていくことは必要なことではないかと私は思っております。委員の皆様方、どうでしょうか。

小澤教育長職務代理者 6割を8割に上げるというのは1つの案だとは思いますが、いつぞや話題になったのは、就学援助費の対象項目は、4つだか5つありました。それで、支給対象外のもの、例えばPTA会費。PTA加入は任意だから、これはだめと。それから部活。部活も任意だから、これも一律はいけないということでした。6割は、塩尻市はトップクラスだから現状維持とするというのが3年ばかり前に話題だったように、あいまいに記憶しています。PTA会費だとか、部活だとか、そういう項目を広げるという考えはないでしょうか。

岩垂こども教育部長 済みません。とりあえずですね、そうすると、じゃあどこをやるかという部分がございます、例えばPTA会費に特化した場合ですね、じゃあ全員の方になるわけで、貧困対策とは違うのではないかと考えます。

小澤教育長職務代理者 任意。

岩垂こども教育部長 そうですね。今回の就学援助という意味だと思うんですけども、それよりもですね、まず衣食住ということであれば食で、先ほどのですね、塩尻市、もし仮に8割にした場合でもですね、これトップクラスではないんですよ。実は10割をしているところが19市の中ですけども5市ございますし、8割を超えているところが5市、6割が塩尻を含んだ2市で、その他が7市ということで、全然上ではないということも現状でございます。

小口市長 ぜひ来年度も1億円捻出していただいて上乘せしたいので、その中の主要テーマになるんじゃないですか。メニューは、第3子ゼロ、2子半分にしたときと同じように研究してもらえばいいと思いますけどね。

小島委員 就学援助費をもらえる条件はすごく厳しいですよ、たしかいっぱいいろんな条件があつて。税金を納めていないとか、生活保護を支給されている家庭とか。すごくこれをクリアっていう言い方はおかしいんですけど、これに認められる家っていうのは本当に貧困層だと思うんですよ。でも、そのちょっと上の家庭っていうのはあると思うんですよ。例えば母子家庭でお母さん一人で働いて、子供が2人も3人もいる。2人も3人もいると、給食費がひと月役5,000円かかり

ますから、2人いると1万円以上かかっちゃうんですね。そういう御家庭は、全くここからはみ出ちゃって全く就学援助費はもらえないんですけど。たしか諏訪でしたっけ、母子家庭だと半額だけ戻ってくる、たしか諏訪だと思いました。そういう何ていうか一律に所得で切るんじゃないくて、そういういろんなことを垣間見て、最低ラインよりちょっと上の人たちを助ける施策みたいなものはあるのでしょうか。

岩垂子ども教育部長 なかなかですね、そこを今現在、就学援助の対象が、ラインがあるわけですけど、その方々に今補助しているのが、例えば今一例を出したのが、給食費が6割を8割って今やっているんですが、このラインをですね、また上げるといって、またもう少し違う範囲になってしまうんですから、とりあえず今の方々の底のところを手厚くしたいっていうのが今の主に説明させていただいた部分ですから、当然財政的に余裕があればもっと上を行きたいと思うんですけども、当面はそこをというのがどうでしょうかという考え方でございます。

小島委員 わかりました。

岩垂子ども教育部長 このことについてはですね、また財政計画、あと行政評価もありますので、その中で議論させていただいておりますが、方向的には間違っていないというふうに確認させていただきたいと思います。

小口市長 ただね、子供中心で全てあるべきなので、それは子供のプライドという点から、必ず問題にならないか、そこだけが心配なんですよ。

岩垂子ども教育部長 議会でも質問あったんですけど、あくまでもプライバシーで、受けているってことは秘密になっていますし、先生方もですね、そこら辺は配慮してもらっているというのが現実です。

小口市長 知っているのは、親だけということでもいいわけ。

岩垂子ども教育部長 親しか知らない。そうですね。子供さんは知らないということです。

小澤教育長職務代理者 民生委員は知っていると思います。

岩垂子ども教育部長 そうですね。知っていますね。

まず、そんな形で検討させていただきたいと思います。では、次の放課後学習支援について、ちょっと説明させていただきます。

青木子ども教育部次長（教育総務課長） 放課後学習支援の関係は、本年度の新規事業ということで、丘中学校をモデル校として取り組みをとるという予算を計上してありまして、現在、3年生の保護者の皆さんに6月27日以降、月曜日と水曜日の放課後という形で実施を投げかけて要望をとっている状況でございます。当面、夏休みに入る前までの月、水ということで9回、夕方ですね、3時半ないしは4時半ぐらいから5時または6時くらいまでということで、4人の先生をお願いして放課後学習支援を実施してみようということで進めております。以上です。

林委員 済みません。その生徒はどういうふうに募集するんですか。要は、ちょっと3年生の中でその生徒、わかったりして、差別の対象になったりっていうことはあるのでしょうか。

青木子ども教育部次長（教育総務課長） とりあえず募集自体は誰でも受けられる形で受け付けております。その募集の中で、福祉課との連携により、必要と思われる方に直接参加してみたらというような働きかけをしたり、学校のほうでも出てみたら、と働きかけをするというように伺っております。これもプライバシーの関係がありますので、そういう個別の情報が漏れない形で配慮しながら実施していくことになろうかと思っております。

小島委員 これは丘中だけ、とりあえず丘中だけってことでしょうか。

青木子ども教育部次長（教育総務課長） はい。本年度はその予定です。

林委員 そういう貧困じゃない生徒たちがいっぱい来ちゃったりしても困りますね。

小澤教育長職務代理者 1点、いいですか。こういう言い方はまずいかと思いますが、塩尻市でも、丘中でやったりシルバーセンターでやったり、あるいはNPOでもやっています。それぞれが希望者を募ってやっています。ここで指導に当たる方は年配です。しかし、子供からしてみれば、若い人がいい。教え方は問題としない。若いだけで、よく教わり、うまく進んでいく。こんな経験から以前から若い人たちがやってくれればいいなと思っていたんです。西小には、夏休みの間だけ先輩が来て教えてくれている事例があります。一昨日、上田市で長野大学の保育士あるいは教員を目指す学生たちがキッズクラブというクラブをつくって、上田駅前のある場所を借りて、そこで講座を開いて非常に好評だという記事が載っていました。そういう目で見たとき、塩尻市も歯科大があります。歯科大の学生たちがちょっとこっちへ目を向けてくれればいいなと思います。また、松本大学に教育学部ができます。小学校課程ができます。いいチャンスだと思います。松本大学教育学部の学生だとか歯科大生だとか、あるいは村井にある短期大学生だとか、そういう若い方々がインターンを兼ねながら、塩尻市に来て子供たちの世話をしてくれればありがたいなというように思いがあります。御一考いただければありがたい。

山田教育長 今、コミュニティ・スクールで放課後の学習支援とか、長期休業中のサマースクールを計画しているところがあります。両小野学園のサマースクールの話を知りましたら、やはり地域出身の高校生とか夏休みで帰ってきている大学生とか、そういった学生たちによる指導も含めてサマースクールをやっていくということが出ていました。ほかのところでも今、西部中で行っているものも、信大の学生に来てもらって一緒にやっています。こうした例もありますので、こうした取り組みをぜひ進めたいと思っています。

小澤教育長職務代理者 大学も含めて。

山田教育長 松本大で教育学部をつくりたいと説明に来た折には、塩尻市では教育実習を積極的に受け入れるのでぜひね、生徒たちに教育実習だけじゃなくてね、子供たちの様子を見てもらったり、教職員になるための指導・支援の経験をつむことのできるボランティアとしてね、さまざまな活動に加わってほしいってお願いをしました。担当者は、「それどころじゃない」と言っていましたので。

小澤教育長職務代理者 教室にどンドン入ってもらえばいい。それで良好な人間関係をつくっていく。

山田教育長 期待をしていきたいと思います。

小澤教育長職務代理者 お願いします。

小口市長 豊後高田の例ばかり出して済みませんが、豊後高田がそれでもうまくいっているから、ぜひ視察の価値があるというお話しいたしましたとおりです。一番最初は、今心配していた年配の方。ちょっとゆっくりだし、確かに子供には受けない人も多いな、正直言ってね。そのうちに5時過ぎに市の職員が何人か行き始めた。そのうち公文の若い先生が来たっていうんですよ。何で公文、パッシングするんじゃないのって聞いたら、もっと勉強したい人はそこから公文に来てくれると、顔つなぎすれば。全然問題ないんですって。ばかな質問しちゃったなって思って恥ずかしくなったけどね。ということです。そのほかに、もちろん勉強があまり得意じゃない高齢のお嬢さん方がメンテナンスだけでもいてくれるっていうわけですね。見守りのほうですよ。チャンピオンサンプルのところを見せてもらったから余計そうなのかもしれませんけれどもね。それがね、全市、北小野から始まってずっと浸透していけば最高だなんていうのを視察してきてからお話ししたけども。今、そういうことだと思うんですね。歯科大の学生、理事長に会うことちょくちょくあるので、投げかけてみます。松本大学でもいいし。そのかわり、まるっきりゼロのボランティアの人もいるし、

時給1,000円くらいという人もいるそうです、生きがいのために。まさか市の職員が残業代とは言わないと思いますけど。だから、あっていいんだそうです。豊後高田が成功しているから余計見本にされるんであって、どこの自治体でもできることではないと思いますけどね。

岩垂こども教育部長 それでは、(3)番のですね、学校図書の整備について、お手元の資料のまず説明からさせていただきたいと思います。

青木こども教育部次長(教育総務課長) 表裏両面の資料ですけれども、小中学校の蔵書数と年間貸出冊数の表でございます。これは、ある学校の図書館司書の先生から、蔵書数はあるけれども古い本が多いので何とかしてほしいというような要望が出てきているということで、現状把握として、実態を調査した内容でございます。とりあえず分析はしておりませんので、生の数字ということで。冊数自体は、例年図書費も予算計上しておりますので、整備率としてはほぼ100%を超えているような状況で、標準と比べれば整備はされているということでございます。裏面のほうに貸出冊数がありますけれども、こちらは学校ごとにちょっとばらつきがある状況で、多いところは1人当たり100冊を超えている小学校もあるんですが、中学のほうは比較的少なくなっているという状況でございます。以上です。

中野市民交流センター長(図書館長) 今の件でお願いします。古い本があるという話ですが、図書館の司書については図書館で対応しておりますから、現在、各学校図書館を回っています。ある学校の産業というか経済のほうの分類になると思いますが、携帯電話の説明の図書が自動車の携帯電話となっている本が並んでいます。要は今の携帯電話とかではなくて、その以前の状況の本しかないというのがあります。いかにもちょっとそれでは困るのかなという部分があります。少し予算の使い方とかですね、学校の図書の選択の仕方っていうのを、少しこれは図書館司書だけの問題じゃなくて、学校の図書というのは学校の教育の中で使われていくべきものであるもので、先生方との調整の仕方っていうのも少し研究しなくてはいけないのではないかなっていうところを思っています。また、委員の皆さん等の御意見をいただきながらやっていきたいなということは思っております。現実にはそういった課題があるというのが現状です。

この点は、学校によって若干ばらつきがあるっていうのも事実なので、図書の費用が大規模校の予算額が大きくなるという現実があって、ベースの部分の図書をどれだけ整備できるかっていうところも課題だというふうに現在捉えているというところなんです。

小澤教育長職務代理者 続いていいですか。その数字にばらつきがある。古い本、廃棄に対する司書の意識の違いも働いているんじゃないですか。というのは、廃棄基準はない。学校を回っているときにある学校の司書さんが、こんな古いものが貸し出しできますかって言って怒るわけです。だけど、古い本の中にも、いいのがある。そういうところに目を向けさせないで、新しいものという。確かに子供は、新しいのに目を向ける。しかし、クラシック、古典の中にも値打ちのあるものがある。子供たちには古いものも大事にするっていう意識も働いてほしい。司書さんたちにも。そんな御指導をお願いします。

中野市民交流センター長(図書館長) その点については、学校の先生たちとどういふ本を選ぶかという部分をきちっとやらなければいけないというのがまず第一にあるんじゃないかなと思います。それともう1つは、調べ学習で使うものはある程度のものでそろっていきやいけない。その部分はベースとして必要ですし、例えば古い図書については、おっしゃるように捨てていいとか、それがあるのがいけないかっていう話ではなくて、貴重な資料である場合は、その部分については、例えば公立の図書館で引き受けて、蔵書としてきちっと資料として保存していくというやり方を整理する必要があるんじゃないかなっていうのが今、私のところで捉えている考えです。

小澤教育長職務代理者 いいアイデアですね。

小口市長 それを目的で司書のローテーション始めたわけでしょ。学校にいると井の中の何とかさんになっちゃうんでね。ということだと思うんですけどもね。

中野市民交流センター長（図書館長） そのために今、各学校に行ってお話を伺っているというところでございます。

山田教育長 図書廃棄基準っていうのはあるんですよ。図書廃棄基準というのは、たしかあるんですけど、学校図書館に。ただし年度末の蔵書冊数、標準の定める蔵書冊数というしぼりがどうしてもあるので、ちゅうちょしているっていう部分はかなりあると思いますね。

それから、古いものの中に確かにいいものはあるんですが、子供の読書の「本に親しむ」ということを最優先にしていくってことからすると、こういう古い中にもいいものはあるよと気づかせていくことは確かに大事なことです。もう一方、やっぱり今子供たちに読ませたい本、今子供たちが読みたい本をできるだけ潤沢に用意していくことも必要なことではないかと思います。図書購入費そのものについては、今、国で交付税額の概算でいただいているお金とほぼ同額のを予算化していますので、子供たちに、より「早ね早おき朝ごはん・どくしょ」の読書を充実していくためには市の施策として思い切ってもう少し学校で本を買える予算を多くできればありがたいなと思います。あと生きる力を育む交付金の中でも、こういうことについてしっかりとうちの学校、うちの学級では勉強するので、それに対する関連図書について、ぜひこれだけは欲しいというものを校長裁量でさらに上乘せできるようなことをしながら、子供たちが知的好奇心や探求心を満足できる、そういう学校図書館にできていったらありがたいなというように思っています。ぜひ御協力いただければありがたいと思います。

中野市民交流センター長（図書館長） もう1点、いいですか。学校図書の関係については、冊数に関しては限度があるので、図書館として分館を使っていたとか、あるいは学校への団体貸出をすとかっていうのをそれぞれの調べ学習の際に利用することをあわせながら学校の司書との連携の中で行っています。学校の図書館にいつでも行ったときに、図書館の中にそういった新しい本がきちっとあるというところを整備していかなければいけないというふうに思っています。

岩垂こども教育部長 予算の関係が絡む話でございますので、次回ですね、総合教育会議等でもそういう形で、なおかつ進めていきたいと思っております。

5 その他

岩垂こども教育部長 本日、一応ですね、このあたりで。予定していた議事は以上となりますけれども、その他としまして、市長、教育長、教育委員さんの皆さんから何かお話しいただくことがございましたらお願いしたいと思っておりますが、何かございますでしょうか。

小口市長 大きなテーマになっちゃうんですけど、駅北が整備されれば、一気に売れちゃうと思います。1、2年であの位置であれば完売となるので、一気に子供が増えると。大門区長会ではお話、既にしてありますけど、2年でかわる区長の方々なので、どこまで真剣になっていただけるのか。皆様の話を聞いていて、西小と桔梗小の通学区について、これはやっぱり教育委員会が発案していただくのが現実的かなと今思いました。区長も2年の人もいるけど、半分は1年でもう終わっちゃう人たちです。その人たちに、3年後に売り出した後の学校のいわゆる分区も含めて議論しろって言うてもなかなか難しい。分区は区長会にやってもらえばいいので、教育の受け皿のほうが重要だと思います。もちろん、これには地区PTAが絡むものでね、いつもそれで引っ張られちゃうんですけど。それをそろそろ、今年中にアドバランだけ上げていただかないと、さあさあになると思い

ますんで、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。私も当然一緒に研究に入らせてもらひます。

ここでもんで、それを議会へ出してもらえばいいんですが、桔梗ヶ原保育園を廃止するとき、結局あれは1年か2年延ばしたんです。それは、私のほうが独断で延ばしたんです、正直に言えば。飛び込み市民会議でとんでもないって話が若いお母さんから出まして、何でもっと早く研究して、ソフトランディングしてほしかったってことです。上の子が年長と下が年少のいる子は、せめて年少が卒業するまでっていうと2年だったんですが、簡単に言えば年長と年少ですから。じゃあ最大公約数として、その間待ちましよう、廃止するのをということだったので、そうならんように。学校は、長野県と違って、簡単につくれませんので。かつその時だけ対処して、あと様子見っていうわけにもいきませんからね。1回つくれば廃止する方が3倍くらい難しいと思ひます。そんなものをぜひ。教育という観点から発案していけば、そんなに無理なく、コミュニティ・スクールの進化と相まって区長会も賛同してくれるんじゃないかというような気がしました。今、思いつきで言ひました。

それと、もう1個、質問で悪いけど、保育園の未満児は、お米を持ってこなくて全給食で、普通の3歳、4歳、5歳は、お米だけ持ってくる。あれは、何か深い理由があったけど、この間保育園で、説明できなかつた。

青木こども課長 そちらにつきましては、保育園の給食につきましては、ゼロ歳から2歳児までは副食と主食をあわせて保育園で用意するという完全給食という形をとっております。3歳児以上は御飯、主食は家庭から持ってきていただいて、おかずは保育園で用意するというので、副給食という形をとっております。これにつきましては、ゼロ歳から2歳につきましては、やはり離乳食や刻みといった関係もありますので、御飯を家庭から持ってくるというのは非常に難しいという問題もあります。3歳以上につきましては、やはり個人差が大きく、成長の度合いも違ひますので、保育園で用意するよりは各家庭で普段食べている量といひますか、その子の状態にあった分の御飯を持ってきていただくということで、それぞれ分けて給食の提供をさせていただきます。

小口市長 そういうことか。量、えらい深い話じゃないんだな。もっと何か深い教育理念があったような気がしたもので。そういうことか。それじゃあ、別に全部、御飯の量を少なくちょうだいって言えばいいんだろ、その子は。全部給食にしちやつたって問題ないよ。どうせそのゼロ、2歳の米は炊ひているんだよな。あれも自園炊飯なの。

青木こども課長 はい、そうです。

小口市長 であれば、それちょっと大きく炊ひだけの話だよな。このくらいの釜にしてやるような話だよな。

青木こども課長 済みません。あともう1点ですね、ちょっと細かい話になるんですが、要は給食費っていうのは保育料の中に含まれているんですけども、その分の国からの補助がゼロ、1、2歳につきましては、その御飯の部分も補助金が出るんですけども、3歳以上については御飯についての補助金が国から出ないんです。そういう関係もござひます。

小口市長 保育料に給食費が入っているから、学校みたいに1食二百幾らって集めてはひないんだな。

青木こども課長 そうですね。

小口市長 不思議だね。親が子供のための御飯くらい朝、炊ひなさいよっていう教育かと思ひていた。そうすると何か単純過ぎるんで、もっと深い意味、知らないですか。

小島委員 知らなかつたです。

小口市長 お母様に、言われなかつたですか。

小島委員 檜川時代は出ていたので。

小口市長 そう、やっぱり。

小島委員 檜川は御飯が出ていて。

小口市長 そうそう、そういうふうに言っていた。あそこは給食配っているからな、大新東がな。

小島委員 完全な給食だったので、何で御飯炊いて持って行かなきゃいけないのって、ちょっと私たちとしては戸惑いもあったんですけど。

小口市長 園長が言っていた。檜川は、前は出ていたんですよって。

小島委員 ちらし寿司の日もあつたり、豆御飯の日もあつたり、いろいろあつたんですけど、塩尻になってタッパーに御飯を炊いて入れていかなきゃいけない形になって。でも、別に苦ではなかったです。

小口市長 今も保育園の母子から、そういう要求は出ていないのかな。全部御飯も出してあげれば、要するに学校と同じようにしてあげれば楽ですよという。

青木こども課長 特に要望の中で、何で御飯だけ持って行かなきゃいけないのかっていうような御意見はいただいております。

小口市長 意外だね。

小澤教育長職務代理者 そういうもんだと思っている。慣れてしまう。

小島委員 慣れちゃってね。

小澤教育長職務代理者 恥ずかしい話、言われてみて、ああそうかと思う。

小口市長 だけど、ゼロ歳、1歳から出している人は、いきなり3歳になったら米、持って来いって。違和感を感じないほうがむしろおかしいと思ったよ、これ。それもさっき言った給食費の小中学校の兼ね合いの中で研究したらいいと思うんです。ただ、教育的にマイナスの方向に行っちゃうことにお金使う必要は全然ないので、よく考えてください。

岩垂こども教育部長 よろしいでしょうか。先ほどの駅北の関係で通学区の変更の関係ですけれども、一応7月の25日に懇談会を予定しております、その意見をある程度吸収した中でですね、教育委員会とも諮っていききたいというふうに予定しておりますので、もう既にその準備はしておりますので。

小口市長 それは区のほうで。委員会のほうで。

岩垂こども教育部長 メンバーを、区長さんPTA、そういうメンバーを集めて懇談会を、今こういう状況で計画しています。

小口市長 それは、こども教育が主催するの。

岩垂こども教育部長 一応うちのほうで主催はさせていただきます。

小口市長 ああそうか。それはいいや。そのことです、言いたかったのは。

岩垂こども教育部長 よろしく願いいたします。

6 閉会

岩垂こども教育部長 それではですね、本日の会議事項は全て終了しましたので、これで閉会といたします。どうもありがとうございました。

○ 午後4時45分に閉会する。

以上